

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年8月26日～9月1日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年9月3日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ロシアによる独立承認から5周年の記念日(26日)

・ソフミで記念式典が行われた。式典にはロシア、南オセチアの代表団が出席。トルシン露連邦院第一副議長がブーチン露大統領およびマトヴィエンコ露連邦院議長の挨拶を伝えた。

・シェフチュク・沿ドニエストル「大統領」からアנקワブ・アブハジア「大統領」に記念日を祝福するメッセージが届けられた。

【南オセチア】

▼ロシアによる独立承認から5周年の記念日(26日)

・ツヒンヴァリで記念式典が行われた。式典にはロシア、アブハジア、沿ドニエストルおよび北コーカサスの各共和国からの代表団が出席。

▼行方不明者の問題(30日)

・8月30日の「国際行方不明者の日」に因んだ南オセチア「当局」の声明によれば、1989年から2008年までの間に140人の南オセチアの住民が行方不明になっている。

2. 外 政

▼ガリバシヴィリ内務大臣がトルコを訪問(27日-29日)

・アンカラでギュレル・トルコ内務大臣と両国の法執行機関の協力について会談。

・薬物・犯罪組織対策アカデミーを視察。警察学校を訪れ、クルチュラル・トルコ警察長官と会談。

▼アラサニア国防大臣がグルジアの国連平和維持軍への参加の可能性を示唆(27日)

・訪米中のアラサニア国防大臣は、27日、国連本部でのミュレ国連平和維持担当事務次長補との会談後、「グルジアは監視員と軽歩兵隊規模の小隊を国連平和維持軍に参加させる可能性を考えている」と話した。

▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣がアルメニアを訪問(29日)

・サルグシャン・アルメニア首相と交通、税関、農業、観光などにおける協力について会談。エレヴァン・トビリシ間の直行便の復活の可能性についても話し合われた。

・アルメニアの経済大臣および交通・通信大臣とも会談。

▼シリア情勢についてのバンジキゼ外務大臣の声明(30日)

・声明はシリア政府による市民に対する暴力と化学兵器

の使用を非難し、人道的な危機に対して国際社会がより積極的な役割を果たすことを支持すると述べている。

・外務省によれば、シリアには現在約20人のグルジア人が滞在している。シリアにグルジア大使館は無い。

3. 内 政

▼サムツヘ・ジャヴァヘティ地方のモスクのミナレットの強制撤去に住民が抗議(19日)

・トルコとの国境に近いアディゲニ地区チェラ村のモスクに、7月にトルコから運ばれてきた高さ24mのミナレットが建てられた。

・8月20日、アディゲニ地区議会はミナレットが当局の許可を得ずに不法に建てられたとして、土地の所有者に200万ラリの罰金を科し、ミナレットの撤去を命令。

・26日、チェラ村に多数の警官が配備され、当局はミナレットを撤去。その際、撤去に抗議するムスリム住民と警官との間で衝突が起こり、内務省によれば、18名が逮捕された。うち3名が警官に抵抗したとして起訴された。現場から警官が立ち去った後も、警察署の周りで抗議行動が続けられた。

・26日夜、国税局が声明を発表。声明によれば、7月14日にトルコからミナレットに使用されている金属が輸入された際に、適切に用途が申告されていなかった疑いがあり、「国税局の決定により」検査のためにミナレットが撤去された。

・26日、グルジア・ムスリム協会は「このような挑発的なやりかたで撤去する必要があったらどうか」として撤去を非難し、ミナレットの復元を求める声明を発表。

・27日、サーカシヴィリ大統領は、事件が「グルジア人の間に対立をもたらすべく計画された挑発行為」であったとして、撤去を非難。同27日にアディゲニ地区長が公金を2011年に流用したとして逮捕されたことに触れ、地区長はミナレットを撤去するという違法な命令を認めることを拒否したために逮捕されたのだと主張。

・27日、トルキアニ法務大臣は、ミナレットが不法に建てられたことは残念だが、市当局による強制的な撤去は「全く受け入れられない」と述べた。

・グルジア正教会総主教府は、事件がグルジアのムスリムとキリスト教徒を対立させ、それによって教会と国の名誉を傷つけるために起こされたとして、イスラム指導者に挑発的な行為に反対することを求める声明を発表。

・28日、ミナレットの撤去に対する抗議デモがバトゥミで行なわれた。ハバゼ・アチャラ自治共和国政府首班はバトゥミのモスクでイスラム聖職者らと会談。会談後、

グルジア・ムスリム理事会のパクサゼ氏は「ハバゼ氏から『ミナレットがモスクに戻される』という首相のメッセージを伝えられた」と述べた。

・29日、アハルツィヘではモスクにミナレットが戻されることに反対する数十人の人々がデモを行なった。

・29日、グルジア青年法律家協会など8つのNGOは、撤去によって国税局は財産権と地域のムスリム社会の権利を侵害したとして、主任検察官に調査を要請。

・30日、ウスパシヴィリ国会議長が党首を務める共和党は、ミナレットは「違法」に建設されたが、いかなる建物の撤去よりも宗教的な寛容のほうが重要であり、国家は信者の宗教的感情を侮辱してはならないとする声明を発表。ミナレットの復元に反対するデモや「ミナレットが再建されることはない」と発言した一部の正教会の聖職者を非難。

・29日、国税局は検査が終了し、ミナレットは返還されると発表。同日、ミナレットの返還を巡ってグルジア正教会とグルジア・ムスリム理事会の代表者がトビリシで協議。ミナレットはチェラ村付近に戻されて保管され、当面は再建されないことで合意。翌30日、ミナレットはチェラ村から数kmの地点に運ばれた。

・9月2日、イヴァニシヴィリ首相は、「宗教的な寛容はグルジアの伝統であるとともに、憲法の基本的な原則の一つである」として、ミナレットは不法に建設されたものであったために撤去されたが、当局は宗教的な問題を扱う際にはより慎重にならねばならないと述べた。

▼ハラティシヴィリ元中央選挙委員会委員長が大統領選挙への立候補を申請(31日)

・小規模政党「グルジア・欧州民主党」および「国民民主党」の候補者として届出。

・中央選挙委員会によれば、9月1日までに43名が大統領選挙への立候補を申請した。

・申請の期限は9月7日。申請者は9月17日までに最低26,530人(全有権者の0.75%)の署名を提出しなければならない。中央選挙委員会は9月27日までに候補者リストを決定する。

・ズラビシヴィリ元外務大臣も出馬の意思を表明してい

る。「ズ」元外務大臣は仏との二重国籍を持つ。憲法上、二重国籍者が大統領になることはできないが、「ズ」元外務大臣は立候補することは可能であると主張している。

4. 経 済

▼2013年1月～7月の貿易統計(26日)

・貿易額5662百万ドル(前年同期比2%減)、輸出額1476百万ドル(同9%増)、輸入額4186百万ドル(同5%減)。貿易収支は2710百万ドルの赤字。

・貿易相手国は地域別にEU諸国26%、CIS諸国33%。貿易額が多い順にトルコ(830百万ドル)、アゼルバイジャン(715百万ドル)、ウクライナ(411百万ドル)。

▼2013年7月の実質GDPは前年比0.6%増(30日)

・30日に国家統計局が発表した速報値。6月は前年比0.6%減であった。

・国家統計局は2013年下半期の経済成長率を1.3%から1.4%に僅かに上方修正した。

▼たばこ消費税の値上げ(9月1日)

・9月1日より、たばこ1箱にかかる消費税がフィルター付きのたばこは0.6ラリから0.7ラリに、フィルター無しのはたばこは0.15ラリから0.2ラリに値上げされた。JTI Caucasusは商品を0.2～0.3ラリ値上げ。

▼年金の増額(9月1日)

・9月1日より老齢年金が月125ラリから150ラリに引き上げられた。財務省の発表によれば、労働可能な男性の生活賃金は144.8ラリ。

・女性は60歳から、男性は65歳から年金を受給する。7月の老齢年金受給者数は685,358人。

4. その他

▼西グルジアで暴風雨による被害(1日)

・アチャラ自治共和国やサメグレロ地方などで大規模な停電や家屋の浸水などの被害が出た。